

平成29年度 公益財団法人山梨県青少年協会事業計画書

事業計画

基本方針

山梨県から、「県立青少年センター」、「県立愛宕山こどもの国」、「県立愛宕山少年自然の家」、「県立八ヶ岳少年自然の家」、「県立科学館」の5施設を指定管理者として管理運営している。現在までの40年を超える施設運営の経験を活かして、県民サービスの一層の充実を図り、利用者の皆様に満足していただける施設運営に努める。

行政をはじめ、家庭、学校、地域社会、企業等との連携を密にしながら、積極的な取り組みを推進し、年々厳しさを増す社会経済状況の下で、従来にも増して協会設立の意義と役割を自覚し、事業を適性かつ継続的に進めるよう、健全な運営に努め、青少年の健全育成を図る。

事業実施計画

I 法人会計 協会の運営

- 1 理事会等の運営理事会、評議員会、等の諸会議を開催し事業を推進する。
- 2 本協会が実施する事業推進のため、集中経理によるコスト節減や自主財源の確保に努める。

II 公益目的事業会計 施設管理運営

1 県立青少年センター運営事業

青少年がいつでも安心してのびのびと活動できる拠点として、また、個人・各種サークルや団体等の県民一般の活動や交流の場として、安全で快適にご利用いただけるよう、適切な施設管理を行うとともに、生涯教育の一環として、幅広い世代に対応した主催事業・自主事業を実施する。

平成29年度は、甲府市教育委員会と連携し、小学生の放課後の居場所のひとつとして、甲運小学校と当センターを会場に、宿題の見守り、様々な体験活動や交流の場を提供することを目的とし、「放課後子供教室」を新たに開設する。

また、引き続き、悩みを抱える青少年への相談による支援事業や子どもの貧困対策の一環としての事業、様々な青少年問題に対する「青少年育成山梨県民会議事業」など、32事業に積極的に取り組み、青少年の健全育成を推進する。

2 県立愛宕山こどもの国・少年自然の家運営事業

愛宕山こどもの国は甲府市内から近く、自然に恵まれた里山の中で、緑と太陽の下で自然と直接触れあいながら、自由に遊びが展開でき、快適に利用頂くため常に環境整備、施設修繕、設備保守を行う。

また、愛宕山こどもの国における既存施設「固定遊具」「ライオンの池」「変形自転車」「芝生広場」「花の迷路」「遊歩道」及び人が入ることができる林間などの整備を進め、満足度を高めるための有効活用と安全で楽しい遊び場の確保を積極的に進めると共に、職員による遊びの指導助言を行う。

少年自然の家では、家庭生活、学校生活を離れ、自然体験活動や集団宿泊生活を行うことで、自主的に判断し、行動できる能力、生きる力、豊かな人間性を身につける等、様々な活動を通じて、教育効果が期待できるように進める。野外観察、自然研究等の学習活動が円滑に実施できるよう自然環境の整備、活動支援、施設周辺には歴史に関わる神社、仏閣なども多数あり、それらを最大限活用したプログラムの開発と提供を行う。

また、施設利用者の増加と児童の健全育成に対応した年間27の主催事業・自主事業を実施し、子育て支援団体との連携事業、地域の人材の協力を頂きながらのイベントの実施など、愛宕山地域に根ざした施設となることを目指す運営とする。

3 県立八ヶ岳少年自然の家運営事業

子どもたちが家庭や学校などの日常生活から離れ、集団宿泊体験により自らを律する精神を学び、自然を身体で確かめる自然体験活動により自主性や社会的態度を身に付け、経験とすることで学校生活等の充実に寄与でき、子どもたちと指導者双方に意義ある理想的な学習環境づくりと活動支援を行う。

さらに家庭・家族、環境等の現代的課題に対応した支援事業としても、子どもたちや家族が元気になれ、季節を肌で感じ取れる多様な主催・自主事業を年間通して25の事業を実施し、併せて自然体験活動の普及を推進する。

急速に進む少子化の中、定期利用と更なる利用の増加を図るため広報活動についても、従来と同様に「ソーシャルネットワーキングサービス」等の各種メディアを積極的に活用し、多面的で広範囲な情報提供を継続的に行い、公平性を保ちながら利用の促進・拡大に努める。

また、常に安全管理には万全を期すとともに、コスト意識を持ち、安定的かつ経済的に自立した施設づくりに努め、安心と信頼を兼ね備えた快適な環境を提供する。

4 県立科学館運営事業

青少年をはじめとする県民の科学への関心と理解を深め、豊かな感性と創造性を育む施設として、県民の期待により一層答えるよう、積極的に役割を果たす。

このため、平成29年度の管理運営にあたっては、これまでの良い点は維持しつつ、さらなる利用料収入増収の工夫や経費節減、効率化を念頭に、より効果的に実施していくとともに、利用者が安心、安全、快適に利用できる環境整備に一層努める。

また、主催事業の実施にあたっては、「サイエン旬事業」や「リフレッシュ理科教室」、新規の「科学探求講座事業」等において、大学や企業、関係機関との連携をさらに強化し、科学を取り巻く旬の話題や日々進歩している科学技術について、幅広い世代にわかりやすく紹介していく。さらに、各種事業のテーマ設定や実施方法についても、より県民ニーズに沿った展開に努める。

また、学習利用についても、学校からの意見・要望等を踏まえた実施により、小中学校の利用拡大を図っていく。

さらに、効果的な広報活動や出張科学館、出張観望会の開催により、普段科学館に足を運びにくい遠隔地や利用の少ない子ども達にも、科学の面白さ・不思議さを体験していただき、併せて利用促進につながるよう、鋭意取り組んでいく。

利用者の視点に立った安心で快適に利用できる施設運営を目指し、業務を推進する。

Ⅲ 収益事業会計 利用者支援サービス事業

サービスの向上と満足度を高めるため、自動販売機による飲料水の販売等や自然科学、宇宙天文に関するオリジナル製品の販売により利用者を支援する。

安定した経営資源確保のため、外部団体との提携により魅力ある自主事業を定期的実施し、施設の利用率向上と収入確保を図る。

作成したプラネタリウム番組を他の科学館等にPRを兼ねて安価で配給する。